

こうごう か あ 咬合(噛み合わせ) 治療



西村歯科医院

I . 頸口腔 (アゴ・口・歯) の機能

頸口腔の主な機能として

- i) 咀嚼 (食物を捕えて碎く働きをすること)
 - ii) 発音
 - iii) ストレスの管理 (歯軋り、噛みしめ)
- 等が挙げられます。

現代社会における役割として本来の機能である咀嚼や発音だけでなく、ストレス管理もかなり重要となってきています。

アゴでストレス管理とは意外なようですが、

- ・歯が浮くお世辞
- ・歯の根が合わぬ
- ・奥歯に物が挟 (はさ) まったよう
- ・歯軋りして悔しがる

等の表現にもあるように、口は感情の現れやすい器官といえます。例えば緊張や恐怖を感じる際に歯を噛みしめたり、また睡眠時には歯軋りや噛みしめをすることがあります。ストレス (肉体・精神の) が高まると、この睡眠時の歯軋りや噛みしめの時間が長くなるという研究報告があります。つまり睡眠中に体を休めたり夢をみたりすることと同じくストレス管理の一役を担っているのです。しかし歯軋りをしているか否かは自分では判断がつきにくく、噛みしめには音を伴わず他人にも分からぬいため自覚するのは困難です。また歯軋りより噛みしめを行っている比率が高いことが、それらを自覚することをよりいっそう困難にしています。起床時にアゴが疲れていたり頭痛や肩こりがある場合には正常な機能を越えたこれらの行為の存在が疑われます。

このように、アゴは食事や発音のみならず精神的な管理にも重要な役割を果たしています。

II . 咬合治療とは

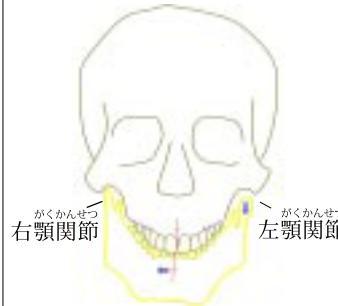
咬合治療の目的に以下の3つがあります

- 1. 下顎 (下のアゴ) の偏位の修正
- 2. 骨格と筋肉に調和した噛み合わせ
- 3. 頸関節 (アゴの関節) 機能の回復

1. 下顎の偏位の修正

下顎は筋肉によって頭からぶらさがっており、筋肉のバランスと上下の歯の噛み合わせにより位置が決まります。その下顎の位置がずれたまま上下の歯が噛み合うような場合には、左右の歯が均

<下顎が右にずれている場合>

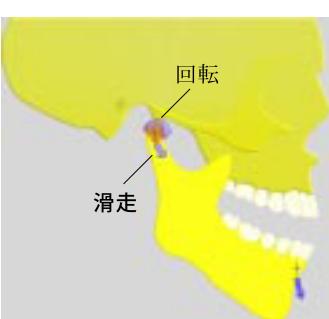


等に接触できず噛み合わせに関与する筋肉のバランスがとりづらくなります。

2. 筋肉と骨格に調和した噛み合わせ

全体の中で1本だけ強く当たるような歯があると、噛みしめる傾向が強くなります。また奥歯と前歯にはそれぞれの役割があり、お互いの機能を分担するような仕組みになっています。さらに全体の噛み合わせは個人の骨格や筋肉に調和したものでなければなりません。

3. 頸関節機能の回復



頸関節はその特徴として、他の関節とは異なり回転と滑走を伴う運動をするため、自由度が高い反面ズレを許容しやすい構造になっています。また噛み合わせに問題がある場合には、口が開きにくかったり痛みが生じることがあります。

III . 重力下での姿勢

今より約400万年前に地球上に姿を現したとされるヒトは”二足直立歩行”を行うことができる唯一の動物です。そして両手が重力から開放されることにより人類は様々な発展を遂げてきました。

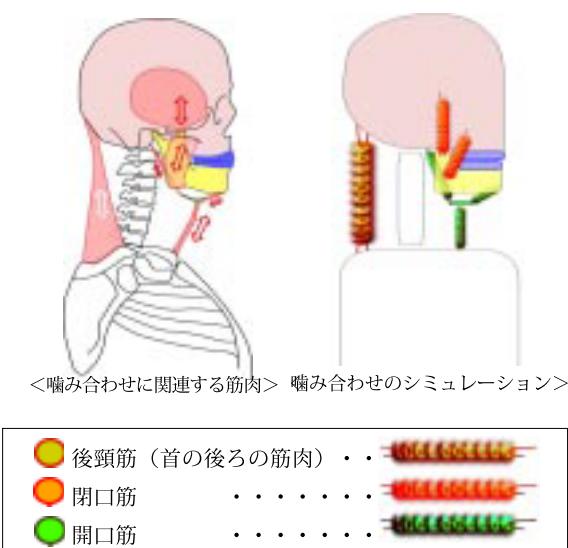


左の図はヒトが直立するさいに、筋肉がバランスをとっている様子を示したもので、このように様々な筋肉の調節によって、姿勢を維持することができます。また静かに座ったりあるいは立っているときでも、これらの姿勢を維持する筋肉は緊張しており、それによって体が前後に傾くことなく、姿勢を保つことができます。

図のように首の前方にある下顎に付く筋肉も姿勢を維持する筋肉と繋がっています。

IV. 頭頸(頭と首) 部のバランス

人の頭は約8kgの重さ(ボーリングのボール程度)があります。そしてその頭を懷中電灯の太さぐらいの頸椎(首の骨)が支えています。そのなかで下顎(下図の黄色の部分)は約1.4kgの重さがあり開口筋(口を開ける筋肉)と閉口筋(口を閉じる筋肉)により位置をコントロールされています。前述の首の前方の筋肉は閉口筋に属するものです。閉口筋はアゴを閉じるためのものですからアゴよりも上の方向についています。



上の図は頭頸部の筋肉の解剖と、それをモデル化したものです。この図から頸椎(首の骨)の前方に位置する緑の閉口筋と赤い閉口筋に対し、後方に位置する黄の後頸筋とのバランスにより頭部の姿勢が保たれています。また下顎を動かす際に咀嚼筋(開閉口するための筋肉:開口筋と閉口筋の総称)が活動するときにも同様に頸部(特に首の後ろ)の筋肉がしっかりとバランスを取り、頭部が固定される必要があります。そうでなければ噛もうと力を入れると頭全体が動いてしまい、うまく噛むことができません。このように噛み合わせに関連する筋肉は特に首を支える筋肉と密接な関係にあるといえます。

この咀嚼筋が、噛み合わせの異常により必要以上に緊張しているときには首の筋肉も頭の姿勢を保持するために同じく緊張しているということになります。肩こりや首の凝りの原因の一つになります。

IV. 下顎の偏位と症状発現

これらの下顎の偏位によって発症する病態はTMD(Temporomandibular Disorders)(訳:頭蓋と下顎の不調)と定められています。TMDの症状としては頭痛・肩凝り・めまい・耳鳴り等があります

す。

下顎が偏位する方向は、前後・左右・上下いずれの方向にもあり得ることですが、その原因として

i) 先天性

・遺伝

ii) 後天性

・食生活

・虫歯

・歯周病

・抜歯後の放置による隣の歯の傾斜

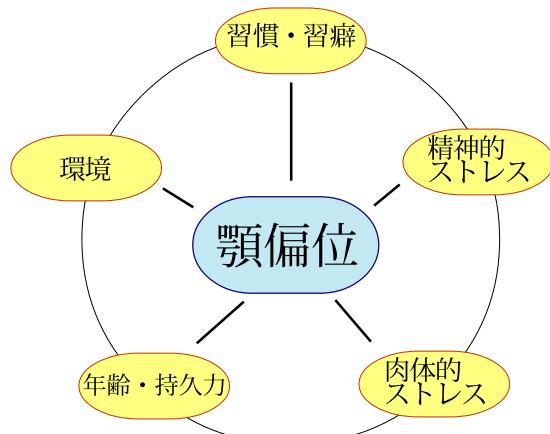
・親知らずの挺出(歯が延びること)

・親知らずの方向異常による圧迫

・悪習癖(歯軋り・噛みしめ・舌や唇の癖・頬杖・etc.)

・骨折、脱臼

等が考えられます。



そして上の図のように様々な因子が複合されTMDが発症します。

顎偏位が少なくとも、姿勢が悪かったり日常のストレスが強ければTMDになる可能性が高くなり、ストレスがなく日常の習慣に問題がなくとも偏位が大きければTMDを惹起するというように、各個人に特有の発症形態があります。

V. 今後の歯科医療

これからは失った歯をただ入れたり、一本だけの歯を考えるだけではなく、顎口腔全体の機能を考慮し、健康を維持するための歯科医療が求められる時代です。